

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

○13番（笹岡ゆうこ君） よろしくお願いたします。13番笹岡ゆうこです。今回は、幼稚園の預かり保育、また病児病後児保育等への支援拡充と、スマートシティに向けた取り組みについて質問させていただきます。

大きく分けて1番目、幼稚園の預かり保育と病児病後児保育等への支援拡充について伺います。

内閣府は、平成28年度版子供・若者白書を発表し、新たな子供・若者育成支援推進大綱を決定しました。それによると、社会全体で子育てを助け合う環境づくり、貧困の連鎖を絶つための取り組み、児童虐待を防止するための取り組み、多様な家庭環境に配慮し、個々の状況を踏まえた対応などが必要であるなどとしています。また、全ての子ども、若者が健やかに成長し、全ての若者が持てる能力を生かし、自立、活躍できる社会の実現を総がかりで目指すとし、社会全体で支援をしていく姿勢を示しています。

しかしながら、共働き家庭、ひとり親世帯の増加、核家族化、地域コミュニティとの関係希薄化、子育て家庭の孤立感、教育費への不安感、男性の長時間労働など、子育ての負担感を感じる人が増しているのではないのでしょうか。女性活躍、また、安心して産み育てられる環境整備への道のりは、まだまだ遠いと感じております。**今後多様化する子育てニーズに応えるためには、多様な主体での支援が求められています。**全ての子どもや、その家庭への支援を行き渡らせるためには、市と、子育て支援を担う団体や機関等の連携が必須であると考えております。

1番、幼稚園の預かり保育への支援拡充について。幼稚園の預かり保育に関しては他議員からもいろいろ質問が出ておるところであります、伺います。

平成28年度策定の武蔵野市第五期長期計画・調整計画において、幼児期の教育の振興として、待機児童対策への対応を含め、幼稚園を活用した預かり保育の充実に関する補助の見直し、拡充を図るとしています。

また、同年の施政方針において、さらなる各保育所の定員増や事業所内保育所の新設補助、幼稚園の預かり保育の拡充などにより待機児解消を目指しますとあります。そして、同年発行の子育て支援情報誌すくすく、この前出たばかりですけれども、においては、私立幼稚園における預かり保育の拡充、研究、研修への支援を行い、幼児期の教育の充実を図りますとありました。**この間、第5期長期計画・調整計画策定において、また決算委員会、予算委員会、**

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

一般質問においても、現状やニーズ把握、問題点の洗い出し等を訴えてきたところではあります。

1 番、近年における幼稚園の預かり保育の利用延べ人数、及び利用している親の就業状態の把握はいかがでしょうか。

2 番、本年3歳児の受け入れを確保するために、夏休みなど長期休暇中を含め、おおむね年間250日間、在園児の預かり保育を拡充する東幼稚園に対して補助を拡充しました。進捗と今後の展望はいかがでしょうか。

3 番、先ほど御紹介した平成28年度版子供・若者白書において、文部科学省は、幼稚園が地域における幼児教育のセンターとしての役割を果たせるよう、親と子がともに育つという観点から——中略します——子育て支援の実施を推進している。また、地域の実態や保護者の要請に応じて、通常の教育時間の前後に行う預かり保育を推進するための財政措置などの支援を行っているとありました。本市での地域の実態、及び今後の預かり保育推進に向けた取り組みについて、見解を伺います。

4 番、現在12園ある幼稚園のうち、預かり保育が17時に終了するものが9園、16時半終了が1園、17時半終了が1園、水曜日にはお昼過ぎに終了してしまう園が3園。18時終了は1園、これは10月から3月までは18時などと、季節によって変えているところもありますけれども、それは2園あります。また利用料金も、1時間500円の園もあれば、1日800円の園——これはこども園にありますけれども——もあります。このような利用時間もまちまちで、保護者負担もまちまちの中で、幼稚園の預かり保育を市が掲げる待機児対策としてしまうのは、利用者、また、その家庭の負担増だと懸念しておりますが、見解を伺います。

5 番目、**松戸市、我孫子市、横浜市等の他自治体を実施している預かり保育料一部助成制度による子育て世代への負担軽減策**について、本市でも実施すべきと考えますが、見解を伺います。この預かり保育料一部助成制度というのは、中には対象を、働いている人、お母さんですね。働いている親、妊娠中、病気、介護等を含めて設定しているところもあり、かかった費用の2分の1から1万円ほどの自己負担としているところ、そういった補助制度にあります。

大きな2番、**病児保育、病後児保育等訪問型支援サービス**について伺います。

働きながら子育てをする上で、子どもの病気は突発的かつ頻繁に起こり、苦勞している声が

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

本当によく聞かれます。特にインフルエンザやみずぼうそう等の感染症においては、登園、登校許可が得られるまでの一定期間、親の就労が困難になる上、兄弟間で感染し、登校してはいけない、登園してはいけない期間が大変延びる、全体的に延びてしまうことがあります。これは在宅勤務がまだ広がりを見せない中で、**病児病後児保育の支援の拡充というのは子育て家庭の切実な願いであると感じております。**

そこで1番、本市において病後児保育は2カ所、そのうち病児保育も可能なところは1カ所です。近年の利用状況、及び今後の病児病後児保育室新設等への見解を伺います。

2番、**平成27年度第2回定例会、約1年前になりますけれども、本市における居宅訪問型保育事業への取り組みについて一般質問させていただきました。**

子ども・子育て支援新制度では、居宅訪問型保育事業、つまりベビーシッター等が家に訪れてやるものですが、それは市町村による認可事業、これを地域型保育事業として児童福祉法に位置づけた上で地域型保育給付の対象とし、多様な施設や事業の中から利用者が選択できる仕組みとするとしています。本市における居宅訪問型保育事業の進捗を伺います。

3番目、施設型の病児病後児保育のほかに、民間の事業者が実施するベビーシッター派遣による居宅訪問型保育サービスが注目されていて、新聞等にも取り上げられているところであります。内閣府も、育児支援の一環として、企業主導型ベビーシッター利用者支援事業に取り組み、多くの企業が福利厚生の一つとして企業が補助を出したり、そういったことが始まるようになりました。自治体においても**居宅訪問型病児病後児保育利用料に対する一部助成**を始めるところがふえてきております。**都内でも豊島区、北区、台東区、文京区も実施を開始**しました。これは対象者を生後しばらくの赤ちゃんから、小学校中高学年を対象としているところが多いです。またそれらは、さきの一般質問でも御案内した公益社団法人全国保育サービス協会加盟事業所などを中心に補助の対象としております。同様の取り組みを本市でも行い、育児支援の充実を図るべきだと考えますが、見解を伺います。

3番、その他の子育て支援策拡充について伺います。**江戸川区**は独自の制度として、子ども・子育て支援新制度の対象の施設に子どもを預けていない場合、これは幼稚園とかになると思いますが、**乳児養育手当として月額1万3,000円を満1歳まで支給**しています。これは江戸川区独自の制度として、ホームページには、赤ちゃんにとって一番大切な時期に保育に専念する人へ向けたものといった記述がありました。このような独自の支援、本市独自の子育て支援策への取り組みについて、見解を伺います。

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

大きな2番目、スマートシティに向けた取り組みについて伺います。

大きな話になりますけれども、地球の環境問題は、21世紀における最大の課題と言っても過言ではありません。地球温暖化、ごみ、大気汚染、土や水の汚染、森林伐採、生物多様性の喪失など、多くが人間活動によってもたらされたものであるとされ、地球規模の環境問題は人口、貧困、エネルギー問題等、国際社会が直面するさまざまな問題が複雑に絡み合っています。地球規模で考え、足元から行動せよといった言葉は、環境問題を語る上では有名な言葉です。日本においても平成28年、第34回地球温暖化対策推進本部において、地球温暖化対策は内閣の最重要課題とし、政府を挙げてクールチョイス等の環境問題の取り組みを推進していくとしました。環境省ホームページにおいても、日ごろの小さな選択が未来を大きく変えていくとして、**一人一人のふだんの行動に加え、身の回りの小さな選択こそが地球を変えていくと啓発**しています。

1番、東京都は、スマートエネルギー都市推進事業として、低炭素、快適性、防災力の3つを同時に備えたスマートエネルギー都市の実現に向け、家庭や企業でのエネルギー利用の効率化、最適化に資する取り組みを推進しています。本市においても、平成11年第一期環境基本計画策定以降、市内の環境保全に対する取り組みや環境負荷低減施策への取り組みを積極的に行っていました。平成28年度からの第四期武蔵野市環境基本計画によるスマートシティ武蔵野実現に向けたエネルギー消費に配慮したまちづくりや施策について、進捗状況と今後の展望について伺います。

2番、平成28年度施政方針並びに基本的施策において、エネルギー消費のスマート化に向けた啓発活動を推進するとありますが、市民向け、また子ども向け啓発活動にはどのようなものがあるか伺います。

3番目、家庭における取り組みにおいて、太陽光発電導入のほかにも、**スマートメーターの設置、HEMSシステム利用による、これはホームエネルギーマネジメントシステム**ですけれども、によるエネルギーの見える化の推進が大切であると考えます。武蔵野市効率的なエネルギー活用推進助成金の交付状況について、現況を伺います。

4番目、**本市は土地利用の73.5%が宅地であり、市全体が市街地化された消費型都市**と言われております。**市全体のエネルギー消費においても40.2%を家庭部門が占めており、家庭部門14.3%の全国や、31.6%の東京都と比べても大変比率が高い**ことがわかります。このことから、

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

各家庭における積極的な省エネ、創エネへの取り組みに期待していきたいと考えております。電力自由化を契機とし、庁内連携をしながら、民間とも連携した取り組みと市民への啓発をより積極的に行うべきだと考えますが、見解を伺います。

以上、壇上からの質問とさせていただきます。

○議長（深沢達也君） 暫時休憩します。

○午後 3時14分 休

憩

○午後 3時35分 再

開

○議長（深沢達也君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長（邑上守正君） それでは、笹岡ゆうこ議員の一般質問にお答えしてまいります。幼稚園の預かり保育、病児保育等への支援拡充と、スマートシティに向けた取り組みについてであります。

まず、大きな1点目の幼稚園の預かり保育への支援の拡充についてということで幾つか御質問いただきました。

まず、1点目、近年における幼稚園の預かり保育の利用延べ人数、及び利用している親の就労形態の把握はいかがかということでございます。今年度は、武蔵野東第一幼稚園、第二幼稚園において預かり保育を、保育園並み、おおむね年間250日まで拡充することを試行的に実施しているところでございます。

預かり保育のニーズを得るため、2園の3歳児の家庭に協力を得てアンケート調査を実施し、全体の8割を超える方々、174名中142名の方から回答いただいております。預かり保育の利用延べ人数は把握できてございませんが、そのうち預かり保育を定期利用されている方は19人、13%で、その理由としては、15名、78%が就労となっているところでございます。

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

2つ目、本年、3歳児の受け入れを確保するために、夏休みなど長期休暇中を含め、おおむね年間250日間、在園児への預かり保育を拡充する東幼稚園に対して補助を拡充した。進捗と今後の展望はいかがかということでございますが、御案内のとおり、武蔵野東第一幼稚園、第二幼稚園での預かり保育の試行実施に伴い、補助を拡充するとともに、利用者アンケートを実施し、ニーズ把握を行っているところでございます。**29年度に向けて預かり保育を本格実施として利用者向けに案内ができるために、周知を今後、図っていきたいと考えている**ところでございます。

3点目、文科省は地域の実態や保護者の要請に応じて、通常の教育時間の前後に行う預かり保育を推進するための財政支援などの支援を行っているところである。今後の預かり保育推進に向けた取り組みについて見解をとということでございますが、国の考える財政支援の枠組みは、開園日数の拡充というよりか、むしろ1日の開園時間の拡充となっておるところでございます。武蔵野市においては、まずは開園日数の拡充により、**250日開所に向けた働きかけをほかの幼稚園にも行っていきたい**と考えております。

4番目、現状で幼稚園の預かり保育を待機児童対策とするのは、利用家庭の負担増だと懸念しているが、見解をとということ。5点目の、松戸市、我孫子市、横浜市などの他自治体を実施している預かり保育料一部助成制度による子育て世代への負担軽減策について、本市でも実施すべきだという御意見でございますが、まとめて答弁いたしますと、**市としましても利用者の負担感は課題だと認識をしている**ところでございます。預かり保育の実施施設の拡充とともに、御紹介いただきました他自治体等で実施している事例などを参考に、今後よく研究してまいりたいと思っております。

次に、2点目で、病児保育と訪問型支援サービスについてということでございます。

まず、1)として、本市において病後児保育室を2カ所、そのうち病児保育も可能なところは1カ所である。近年の利用状況及び今後の病児病後児保育室新設への見解をとということでございます。

市内には、現在、御案内のとおり、**中部地区の病後児保育施設ラポールと、西部地区の病児病後児保育室プチあんずの2施設**がございまして、利用者延べ人数はここ数年、毎年800名台で推移をしております。1日に直しますと、大体二、三人、利用いただいているということでございます。病児病後児保育室については、2施設に加えてもう1施設、東部地区での整

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

備を検討していきたいと考えているところでございます。第四次子どもプランの計画期間中には、ぜひ整備できるよう進めていきたいと考えています。

2)として、本市における居宅訪問型保育事業の進捗をということでございますが、本制度における地域型保育事業として位置づけられている**居宅訪問型保育事業は、本市では今まで実施してきておりませんが、このサービスの対象は主に障害・疾病などで集団保育が著しく困難**である場合を想定しており、市としても障害児等へのサービス充実に向け検討してきたところであります。今後は、近隣自治体の状況やサービス提供事業者の選定など、課題を整理しながら実施に向けて検討していきたいと考えております。

3)として、自治体においても居宅訪問型病児病後児保育利用料に対する一部助成を始めるところがふえてきている。同様の取り組みを本市で行い、育児支援の充実を図るべきだと考えるがいかかということでございますが、**市としましては、第四次子どもプランに掲げた病児病後児保育室の整備を、まずは目指していきたい**と思っています。その上で、利用できる施設の状況、利用者のニーズ、他自治体での取り組み事例などを参考にしながら、利用料の助成等について今後検討していきたいと思っています。

次に、3番目で、その他の子育て支援策の拡充についてということで、江戸川区での月額1万3,000円の支給補助というものがございしますが、そのような取り組みを本市でも導入したらどうかという御提案でございます。江戸川区では、乳児期はできるだけ家庭的な雰囲気と深い愛情のもとで育てるという考えから、公立保育園でゼロ歳児保育を実施せず、保育ママ制度により対応してきた経緯があります。

第四次子どもプラン武蔵野では、全ての子どもが健やかに育ち、未来に向けて自ら力強い一歩を踏み出す力を身に付けることを支えるとともに、全ての子育て家庭が安心して子どもを育てられる社会の実現を目指すことを基本理念として、子ども自身の健やかな育ちの尊重・保障、家庭の教育力、子育て力を高める環境をつくる。地域社会全体で支え合い、妊娠・出産期から切れ目のない子ども・子育てを支援する。このような考え方にに基づき、さまざまな子ども施策に取り組んでいるところでございます。認可外保育施設入所児童保育助成金などの各種助成、0123施設、みどりのこども館、**最近ではベビ吉事業などを開始**するなど、独自の子育て支援策にも取り組んでいるところでございます。

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

子育て支援において、特に医療・教育はナショナルミニマムとして国の責任において環境整備することが重要であり、全国市長会においても国に要請をしているところでございます。市としては、地域の実情や特性を踏まえた課題を認識し、その課題解決をするための施策を充実していきたいと考えておるところでございます。

次に、大きな御質問で、スマートシティに向けた取り組みについてということでございます。

まず、1点目で、スマートシティ武蔵野の実現に向けた、エネルギー消費に配慮したまちづくりや施策について、進捗状況と今後の展望ということでございます。

本市のように、再生エネルギーの賦存量の少ない消費型都市がスマートシティの実現を目指していくためには、市全体のエネルギー消費量の抑制等、あるいは効率的な利用に加えて、再生エネルギーや未利用エネルギーの活用推進ということが必要だと考えております。

スマートシティ武蔵野の実現に向け、市が実施している具体的なエネルギー施策について説明を加えてみたいと思います。

まず、代表的な再生エネルギーであります**太陽光発電**は、平成27年度末現在、**市内の公共施設で合計29カ所、総容量573.42キロワットを配置し、今年度は中央図書館への設置を進めているところ**でございます。また、全ての市立小・中学校への設置も完了しております。引き続き、創エネルギーのための有効な手段と捉えており、ほかの公共施設への導入可能性などを調査していくこととしております。

2つ目として、**BEMS、ビル・エネルギー・マネジメント・システム**でございますが、エネルギーの効率的な利用には、エネルギーの見える化を進め、管理することが重要であり、公共施設へBEMS導入を進めているところでございます。これまで保健センター、中央図書館に設置を行い、現在、改修にあわせて市民文化会館にも導入を進めているところでございます。今後も公共施設の改修等にあわせて導入をしていきたいと考えております。

次に、**地中熱利用**でございます。新しいエネルギーの活用手法として、今年度は温度差を利用した地中熱利用システムの導入を、武蔵野自然観察園で実験的に進めているところでございます。温度差を利用する方法は、今後、有効な未利用エネルギーの活用手法として期待されておるところでございます。今年度の導入効果を検証し、今後のほかの施設への導入可能性を検討していきたいと考えております。

次に、**都市油田事業。家庭から出ます廃食油をBDF、バイオ燃料に精製し、発電など**

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

に使用する廃油活用事業を実施しているところ」でございます。また、吉祥寺地区の飲食店を対象に、通常は廃棄物となっているトラップグリース、動物油脂のエネルギー化を目指している民間プロジェクトを支援しておるところでございます、実用化に向けていきたいと考えているところでございます。

新クリーンセンターの発電。クリーンセンターの更新事業が進んでいるところでございますが、新クリーンセンターでは焼却熱を利用した蒸気タービン発電により、年間当たり1万5,000メガワットアワーのエネルギーを創出する計画でございます。これと、市庁舎や体育館等との連携によるCEMS、コミュニティ・エネルギー・マネジメント・システムの実現を目指しているところでございます。

建物断熱助成制度。家庭や事業所のエネルギー消費の割合の高い本市においては、**建築物の省エネ化がポイント**でございます。現在、市と商工会議所と成蹊学園の三者による窓断熱の実証実験をしているところでございますが、今後も建物断熱に対する取り組みを推進していきたいと考えております。市民による効率的なエネルギー活用を支援すべく、**住宅の省エネ・創エネに関する機器の設置に対しての助成金制度や、事業所の省エネに対する融資あっせん制度などを継続していきたい**と考えております。

次に、**水素活用**。新しいエネルギー施策としては、水素活用を検討していきたいと考えています。今年度、水素を燃料とする燃料電池車MIRAIが本市にも配備される予定となっておりますが、水素については、国や都も積極的に導入を進めており、本市において実現可能な水素の活用方法について今後研究してまいりたいと思っています。

本市のような成熟した過密な市街地では、このようなさまざまな施策を工夫し、複合的に展開していくことが必要だと考えておるところでございます。また、市だけでなく、市民や市民団体・事業者などの関係機関、それぞれがスマートシティ武蔵野の実現をみずから問題として捉えていただき、主体的に行動を実践していけるような都市を目指していきたいと、このように考えています。

次に、2点目で、エネルギー消費のスマート化に向けた啓発活動を推進するとあるが、市民向け、または子ども向け啓発活動にはどのようなものがあるか、伺うところでございますが、エネルギー啓発に資する市全体の主要事業としましては、毎年6月の環境月間にあわせて実施しております環境展、そして秋に関係機関が連携し、実施しております環境フェスタが大

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

規模なものでございます。また、**市内全小・中学校に整備した太陽光発電システムや、現在、自然観察園に整備中の地中熱システムには啓発用モニターを設置をしているところ**でございますので、これらは一定の啓発効果を目的としたものでございます。

日常的には、東京都や東京都環境公社が作成した省エネ啓発パンフレットの配布や活用、また市民団体の主催講座を支援するなど、さまざまな機会を捉え、エネルギー消費のスマート化を啓発しているところでございます。各課で実施している事業、イベントにおいても、ごみの行方を知るツアー、おもちゃの交換会、廃油キャンドルづくり等の体験型ワークショップでは、参加を通じて子どもたちが環境保全やエネルギーの大切さを学ぶことができる内容となっております。今後は、市が実施しているエネルギー施策をわかりやすくまとめ、外向けに発信するツールや、現在、ごみ総合対策課で実施している、小学校等へ出向いて環境啓発につなげる授業を行う出前講座の拡大も研究していきたいと思っています。

なお、現在検討しているエコプラザの開設準備にあわせて、環境啓発事業全般についても内容や対象者を体系的に整備していきたいと考えているところでございます。

次に、3)番目として、武蔵野市の効率的なエネルギー活用推進助成金の交付状況について、現況をということでございます。

スマートメーターとは、家庭全体で利用する電気使用量データ通信により 30 分単位で計測することで、電気利用状況のリアルタイムな把握が可能となる電力計でございます。また、HEMSとはエネルギー使用を総合的に管理するシステムのことでございます。この2つの機器を併用することで、エネルギー使用量の調整・制御による効率的な使用、そして使用量の見える化により、個人でも家庭での電気使用量が把握できるようになることから、さらなる省エネ意識の向上につながることを期待されているところでございます。

本市では、**エネルギー消費の約4割を家庭部門が占めている**ことから、一般家庭での省エネ・創エネを促進することが重要と考えています。そのために、武蔵野市効率的なエネルギー活用推進助成制度を設け、HEMS、太陽光発電システム、家庭用燃料電池コージェネレーションシステムなどの機器の普及定着を図っているところでございます。

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

申請状況については、太陽光発電システムは、25年度で国や都が助成を取りやめたり、FITの買い取り価格の低下などの理由から減少傾向です。

HEMSは、助成を受けるための必要条件としていることもあり、増加傾向となっております。また、家庭用燃料電池コージェネレーションシステムは、年間当たりおおむね数十件程度で推移しているところでございます。

今後、省エネ型住宅であるZEH、ネット・ゼロ・エネルギーハウス等の展開を国が押し進めていることから、家庭における断熱、省エネ、創エネへの市民の関心は一層高まってくると考えられますので、本市としましては市民ニーズや社会動向を注視しながら、同助成制度を継続し、また必要な見直しを行い、活用しやすい支援制度についても研究を進めていきたいと考えております。

最後に、本市は市全域が市街化された消費型都市であるということ。全体のエネルギー消費においても、家庭分が4割を占めているということ。各家庭における積極的な省エネ・創エネへの取り組みに期待していきたい。電力自由化を契機として市内連携しながら、民間も連携した取り組みと市民への啓発をより積極的に行うべきだと考えるが、見解をとということでございます。

先ほど来、説明してまいりましたけども、さまざまな省エネ・創エネの取り組みを市としても進めておりますし、また、各家庭への支援制度も進めておりますので、このような支援制度も極めて有効な手段だと考えております。今後、さらに各家庭の省エネ・創エネなどを進めていくためには、市民がエネルギーについての関心を持ち、みずからが主体的にエネルギーに配慮した行動をしていくことが望まれるものでございますので、より一層の啓発活動が重要だと認識してございます。

本年から電力自由化がなされ、電力会社を自分で選択できるようになりました。電力自由化は、これまでと比べて、料金やコストや環境性などのさまざまな選択肢がふえるため、各家庭における電気契約内容の見直しから、エネルギー使用そのものについても考え直す契機となると考えています。

こうした機会にあわせて、市では自由化直後の4月に消費生活センターとNPOと連携して、消費者の目線で電力自由化をわかりやすく説明する講座も行ったところでございます。電力自由化の基本から再生エネルギーを電源とする電力会社を選択すれば、地球温暖化対策にも貢献

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

できるといった内容まで、エネルギーの監視につながるような啓発を行ったところでございます。今後も庁内や民間団体と連携し、講座などの実施も通じて、電力自由化などの基礎的な情報から、エネルギー全般、地球温暖化対策などの啓発にもつながるような情報まで体系的に啓発事業を展開していきたいと、このように考えております。

○13番（笹岡ゆうこ君） 御答弁ありがとうございました。

まず、幼稚園預かり保育と病児病後児保育の支援拡充について伺いたいと思います。

私は、この幼稚園の預かり保育に対する助成の拡大と、病児病後児保育に対する助成の拡大は、女性活躍ですとか、待機児対策ですとか、女性が安心して産み育てられる環境づくりといった点では必須であると考えておりますので、1年近く検討という言葉はいただいておりますが、ぜひ一歩踏み出していただきたいと考えております。

1番、幼稚園における預かり保育について伺います。

私の質問の仕方に問題がありまして、1番の1)預かり保育の利用延べ人数及び親の就業形態の把握はいかがでしょうかという質問に対して、東幼稚園におけるお答えをいただいたように思いますが、私は全体の幼稚園のことを聞いたつもりでありました。全体の幼稚園の預かり保育の利用延べ人数は3万8,000人と、4万人ぐらいで推移していることと思っております。

そのうちの、親の就業状態・就業形態といいますと、先ほどアンケートでは13%ぐらいが定期利用していて就労状態にあるというお答えが、一つの園でのアンケートであったとありましたが、そのくらいなのかなとは思っております。

つまり、ほとんどの今、預かり保育をしている園児及び親が、在園の就労していない親もかなり利用しているということが、それだけニーズが4万人近くあると。

以前、決算委員会か予算委員会、どちらかで、3歳の壁に直面して、仕方がなくといった言葉ではちょっと語弊がありますがけれども、幼稚園に入った親はどのぐらいおりますかと質問したところ、一定数いるというお答えでしたので、この3万8,000人という中では、そんなに大勢は幼稚園のほうに通いながら、就労できていないのではないかなと思っております。

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

私が一番問題とっておりますのは、そういった時点で助成金もない中で、調整計画ぐらいから始まっているのかなと思いますが、**待機児対策として書いてあることが、親への負担、また自分のキャリア変更になってしまっているのではないかなどという懸念がベースにある**ものでございます。

質問いたします。1番の3番です。本市での地域の実態についての見解を伺った部分がありますが、こちらはまずは250日開所というお答えが実態だったと思うのですが、これもそういうことよりは、働いているお母さん、また緩やかに働いているお母さん、また専業主婦の方、どのような幼稚園の利用の仕方なのかなと思ったところなのですけれども、ちょっと質問の仕方が悪くて、互い違いになってしまったかなと思っております。

ごめんなさい、質問いたします。

その4)です。先ほどから市長からは、保護者負担については検討していかなければいけないというお答えを重ねていただいておりますけれども、財政援助出資団体といますか、子ども協会がやっていらっしゃるこども園の預かり保育との利用金額の実際についてはどのようにお考えか、伺いたいと思います。以前、私が平成27年度の決算委員会で聞いたところ、子ども協会の方からはこのようなお答えをいただいております。

私どもは子ども協会ということで、市の財政援助出資団体というところで市から厚い支援をいただいておりますので、そういった部分も含めまして、料金については一般の民間と全く同じというわけにいかないのかなど。料金について少し安くなっているのかなど認識しておりますというようなお答えをいただいておりますけれども、**市が待機児童対策として考えるのであれば、財援団体との差の是正について必要があるのではないかなど**考えておりますが、いかがでしょうか。

もう1点は、預かり保育の一部助成制度について伺います。

私は、預かり保育を待機児対策とすることに対し、全面的に反対ではありません。むしろ、待機児対策として、待機児が100名ぐらを超えている数字を減らすことには、もしかしたらならないのではないかなど私は思っておりますが、**幼稚園を利用している世帯の緩やかな社会復帰と申しますか、もうすぐ働きたいと考えていらっしゃる方が預かり保育を利用す**

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

ることによって現場に復帰できる。そういったことへの支援にはつながると思っております。

しかし、それを待機児対策の数字をゼロに近くする手法の一つとして捉えるのであれば、預かり保育への一部助成、ほかの団体がやっていたら、例えば保護者は1万円だけ月に負担して、あとは出しますとか、そういったことが必要なのではないかなと思っております。

特に、吉祥寺エリアはこども園がない境エリアと比べ、本当に保護者負担の高くなっているものがありますので、また、そういったところは、幼稚園の選択の仕方としては、近くの幼稚園に通う方がまだまだおりますので、待機児対策として置くのならば、助成制度がなければ、安心して保護者が仕事復帰して預かり保育を利用できる状態ではないのではないかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

また、もう1点、3万8,000人ほど、延べ人数で利用されている方がいる限りは、これを預かり保育の拡充について待機児対策というものに限らずにやっていただきたいなど重ねて要望いたします。以前、今後、預かり保育あるいは幼稚園に対する補助のあり方を、もう一度ここで改めてきちんと考え直す必要があるというようなお答えもいただいております。ということですので、預かり保育についてももう一度検討していただきたいと思っております。

次に、病児病後児保育と訪問型支援サービスについて伺います。これは、**東部地域についても整備に取り組んでくださるというお答えをいただきました。**これはとても喜ばしいことだと思っております。現在ある病児病後児保育は、西久保と境南町ということで、東部地域の方々は困っていらっしゃるのかもしれないと思っております。どんどん進めていただきたいと思っております。

また、居宅訪問型支援事業については、重度障害のあるお子さんに向けた事業と捉えていらっしゃるということでしたけれども、以前質問した際もそうでしたが、そのときはこのようなお答えをいただきました。

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

重度の障害児向けということで、豊島区や新宿区の先進自治体を研究するというお答えをいただいております。

ところが、豊島区重度障害児支援として居宅訪問型を、その質問したときにやっておりましたが、今は質問の3)にありますとおり、居宅訪問型支援サービスを病児病後児保育の助成を出しているのです。

つまり、私たちが居宅訪問型支援サービスをどうしようかなと考えているうちに、豊島区は重度保育が必要な方、重度障害で保育が家庭でできない方への支援ということ、プラス、私たちが悩んでいる間に居宅訪問型支援事業を病児病後児保育にも拡大しております。

こういうことを考えますと、少し歩みが遅いのかなと思ってしまいます。居宅訪問型保育事業は新制度の対象事業でありますけれども、新制度というのは多様な主体で子育てを支えるというのがベースにあると思いますので、あえてここは先進自治体の取り組みを見るのであれば、病児病後児保育にも拡大するべきだと思っております。

また、先ほどから申しております豊島区の例は、この病児病後児保育利用料の一部助成に関しては、預かり保育を月に10日間以上利用している家庭、つまり幼稚園に通いながら働いている家庭も助成対象に含めております。北区は、そういったものは全て含めて、利用した方への助成をしておりますけれども、もう少し前向きな御答弁をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

まず、これをお願いします。

○市長（邑上守正君） それでは、再質問にお答えしてまいります。

幼稚園の預かり保育につきましては、先ほどの答弁では東幼稚園のみに答えておりましたが、全園で実施しておると認識してございますし、おおむね4時、5時ぐらいまで預かっていただいているということで、それは必ずしも待機児対策のためではないと私は認識してございます。

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

むしろ、幼稚園の方のさまざまな家庭の要望を幼稚園側が捉えて実施をしていただいていると思っておりますし、結果として、それが待機児解消にもつながるということであって、目的でやっているわけではないと思っています。

ただ、私どもとしましては、市内で子どもたちの施設として、幼稚園というのは園庭もある専用の子どもの施設でございますので、そういうところで、今、私たちがすごく課題として抱えております待機児解消に向けた何らかの協力をいただけないかなということを思っておりますので、幼稚園側の捉え方としては、幼稚園利用者のサービス拡充ということで捉えておると思います。

それで結構だと思いますが、それが我々にとって、待機児の一部解消にもつながればなど思っておりますので、両方のメリットがうまく合えばいいのではないかなと思っております。子ども園と民間の幼稚園とのさまざまな差というのも認識しておりますので、これは従来からの課題だと考えておりますので、いま一度検討させていただきたいと思っています。

それから、病児病後児保育につきましては、ややおくれぎみではないかということを指摘いただきましたが、まずはその場所の確保という点では、今、足りてない東部地区での設置を目指していきたいと思っておりますし、これを居宅訪問型とあわせて、居宅訪問型で病児病後児保育にも支援を進めていくという取り組みも多事例あるということでございますので、そういう先行事例での状況も十分に見ながら、今後研究をしていきたいと思っています。

○13番（笹岡ゆうこ君） ありがとうございます。

預かり保育に対する認識は、特に異論はございませんので、支援全体を拡充するといった面で進めていただきたいなと思っております。

私も専業主婦から社会・職場復帰した身としては、働くお母さんは本当に大変で、時間がないし、いろいろなことが大変だなと思っておりますけれども、専業主婦の方も違った悩みで本当に大変だなと。逃げ場がないといいますが、すごく頑張っているなと思っておりますので、この層は孤立化しやすいですし、市とのつながりもなかなかあるものではありません。

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

健診ぐらいでしか、市とつながることはなかなかなかったりもするのです。

0123を利用していたら、コンスタントにつながっていることはできるのですが、全ての層が0123を経験しているわけでもありませんので、**幼稚園の方々、また家庭で保育しているの方々への支援というものをもう少し拡充していただきたい**など要望いたします。

また、預かり保育の支援を拡充することによって、緩やかな就業になるのではないか、職場復帰になるのではないかと申し上げましたが、こういったことを女性の創業支援等の、市が今やろうとしていらっしゃることにつなげていただきたいなど思っております。

とても意欲があるお母さん方が多いのですが、ブランクが長かったということで、どうしたらいいかわからないとおっしゃっている方もおりますので、**市が今、女性の創業支援をやろうと、先日も予算委員会で言っておりましたので、そういったところもぜひつなげていただければ、武蔵野市で働き方をふやせる**のかなとも思っておりますので、よろしく願いいたします。

居宅訪問型支援に関しては、今の時代、先行自治体のように、病児病後児保育を支援する一つの支援策として武蔵野市も捉えていって、どんどん進めていただきたいと思います。

ついに実現しましたと、豊島区、北区、台東区のホームページを見ておりますと、子育てにすごく積極的に取り組んでいるなど子育て世代は捉えますが、**武蔵野市もそこに負けずに、子育て世代の誘致も含め、積極的に取り組んでいただきたい**など思っております。

スマートシティについて伺いたいと思います。

先ほど、自然観察園における地中熱に関して、他施設への検討もおっしゃっていたかと思いますが、私、それに対してはちょっと疑問に思います。この**ヒートポンプシステム**というのは**導入コストが高いことが懸念されております**ので、導入コストの高さを既存の井戸を使

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

って落としたという認識でありますので、これは**必ずしも他施設で検討できるものではないのではない**かなと思っておりませんが、いかがでしょうか。

2番目、**HEMSシステム利用の交付状況**についての数字がいただけなかったと思うのですが、私に聞いただけでも、**私の認識ですと70程度あった**かなと思います。これはどのようなきっかけで知るかという、ほかの住宅の機器の刷新で知ったりするということで、必ずしもHEMSシステムの市の啓発で変えようというわけではなく、ほかのきっかけのつながりでHEMSシステムを導入する方がいるということなので、全体的なわかりやすくまとめるツールとおっしゃいましたが、連携をしていただきたいなと思います。

また、こういったものを新しくすることによって、防災にもつながっていくと思いますけれども、いかがでしょうか。防災につながると思いますのは、この前の防災フェスタでもありましたけれども、その後、メーターが新しくなったところのガスのとめ方もどんどん新しくなって行って、変えようということも啓発されると思いますので、どんどん進めていただきたいなと思います。

○市長（邑上守正君） 今、地中熱利用の研究をしております。

そのものをそっくり使用するというよりか、その理念を活用していきたいと思っています。地中熱というのはこれから活用すべき大きなエネルギー源であることは間違いのないのです。つまり、地中熱というのは一定程度の温度を保っている。井戸水であれば、年間を通じて十五、六度の温度が保たれますから、その温度と実際の外気温の温度差を利用してヒートポンプで空調を行っていくというのは、基本的な理念としては正しいやり方だと思っています。技術も日進月歩でかなり進んでおりますので、**今回、そのものをそっくり利用するというか、その理念をほかの施設でも考えていけたら**と思っているところでございます。

それから、HEMSにつきましては、**26年度は70件、27年度は89件**といった交付件数でございます。御案内のとおり、HEMSのためというよりか、太陽光発電もあわせて、これを導入するということが同時に、どちらかというところと新規の住宅の際に、環境性能を非常に意識する方にとっては、こういう導入があり得るのかなど。なかなか既存の中では難しいなと思っ

笹岡ゆうこ 一般質問議事録 2016.9

「幼稚園の預かり保育、病児・病後児保育への支援の拡充と、スマートシティへの取り組みについて」

ています。

また、あわせて、これは環境の問題だけじゃなくて、防災にもぜひつなげていくべき課題だと思っております。例えば、電力の遮断ブレーカーなども最近はいろいろな設備が整ってきて、それもエネルギー源が何かそういう自然エネルギーを使うだとか、いろいろな工夫もあるようでございます。そういう自然エネルギーと防災というのも不可分の関係にあるのではないかなと思っておりますので、いろいろな技術革新が出ておりますので、よくよく注視して参考にしていきたいと思っております。

○13番（笹岡ゆうこ君） お答えありがとうございます。

スマートシティに向けた取り組みについては、武蔵野も歴史が深く、スマートシティという言葉じゃないですけども、環境に優しい都市としては、大変前向きに取り組んでいらっしゃると思っておりますので、現状それぞれの部署がそれぞれいいことをやっているということがあると思うのですが、市民にはそれが全体として伝わっていきづらい部分がありますので、連携してわかりやすくしていただきたいなと思っております。

あとは、子育て支援をもう少しやっていただければ、武蔵野の人気のある都市、ポテンシャルはたくさんありますので、進めていっていただきたいなと思っております。